

林 重雄¹：福井県美浜町に希少種ウミガメの漂着

Shigeo HAYASHI¹ : Sea-turtle of *Eretmochelys imbricata* and *Lepidochelys olivacea* stranded on the beach of Mihama-cho, Fukui Prefecture, Japan

日本近海に生息し、あるいは出現するウミガメはアカウミガメ、アオウミガメ、オサガメ、タイマイ、ヒメウミガメの5種である(石井 1999)。このうちタイマイ (*Eretmochelys imbricata*) は、爬虫綱カメ目ウミガメ科タイマイ属に分類されるカメである。本種の分布域は、太平洋・インド洋・大西洋の熱帯および亜熱帯海域に分布し、日本では南西諸島の一部で繁殖する。一方ヒメウミガメ (*Lepidochelys olivacea*) は、爬虫綱カメ目ウミガメ科ヒメウミガメ属に分類されるカメである。本種の分布域は、太平洋・インド洋・大西洋の熱帯および亜熱帯海域に分布し、日本での漂着は稀で(中村・上野1963; 富田 2007)、これまで福井県では1997年に1例の漂着確認がある(百崎ほか2011)だけである。今回本州中部の福井県の海岸でタイマイ、ヒメウミガメの漂着を確認したのでここに記載する。



図1 水晶浜と山上の位置。

漂着記録

筆者は2011年12月23日、福井県美浜町水晶浜(図1)で漂着物の調査中にタイマイ(図2)を採集した。水晶浜は敦賀市から北西へ10kmほどに位置し、敦賀半島の西側にあたる。この一帯の海岸は花崗岩質の岩礁及び花崗岩質の粗粒砂からなる砂浜である。水晶浜の西側は海に面し、秋から冬にかけて季節風が吹き出すと、漂着物が寄り集まりやすい場所である。

水晶浜ではココヤシ、ゴバンノアシ、シナアブラギリ、シロツブ、ハマナタマメ、モダマ、マルミワニグチモダマといった南方系植物の種子や果実の漂着が確認されており、2010年2月11日には甲長100mm程度のアカウミガメの漂着が報告されている(林 2011)。

発見時(午前10時)の天候は曇、気温4.6℃、北北東の風、風速5.9m/sであった。タイマイは水晶浜の低潮線に、ホンダワラ類や漂着ゴミと一緒に漂着しており、漂着後間もないものと思われた。採集直後のタイマイの腹甲面の四肢や首などの皮膚はピンク色で、仮死状態ではないかと思われたが、蘇生することは無かった。

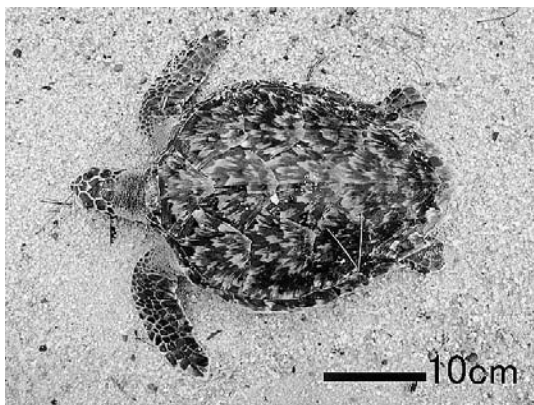


図2 水晶浜に漂着したタイマイ (*Eretmochelys imbricata*) 背面。

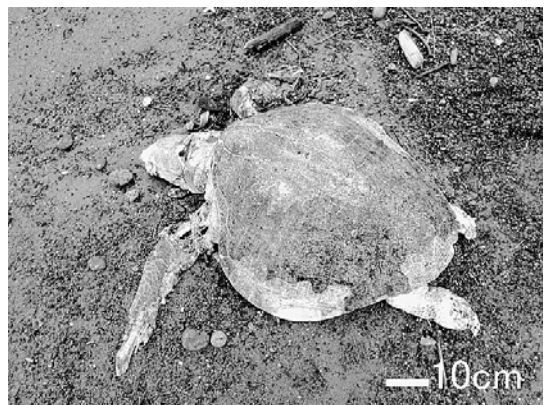


図3 山上に漂着したヒメウミガメ (*Lepidochelys olivacea*) 背甲面。

タイマイの外観は、全く損傷を受けておらず直甲長は305mm、直甲幅は240mm、重量は2.6kgであった。また表面には背甲の一部に藻類の付着が認められたが、フジツボ類の付着は認められなかった。

同日午後、福井県美浜町山上の海岸(図1)では漂着物の調査中にヒメウミガメ(図3)を確認した。山上は敦賀市から西へ6kmほどに位置し、北西に開いた敦賀湾の最も奥にあたる。山上の北西側は海に面し、冬には漂着物が寄り集まりやすい場所である。この日も漂着物は多く、体高が190cmほどのヤリマンボウも漂着していた。

発見時(午後3時40分)の天候は雪、気温2.6°C、北北西の風、風速7.7m/sであった。ヒメウミガメは山上の海岸の低潮線上に、漂着ゴミ類と一緒に漂着しており、漂着後間もないものと思われた。現地で計測したヒメウミガメの直甲長は580mm、直甲幅は592mmであった。ヒメウミガメは死後かなり時間が経っているものと思われ、腐敗が進み四肢の一部には欠損が見られた。また表面へのフジツボ類の付着は、肉眼では確認できなかった。

考察

発見前日の12月22日、水晶浜に近い美浜の気象データは、平均気温6.5°C、平均風速3.2(m/s)であり、最大瞬間風速19.7(m/s)(気象庁ホームページ)を記録している。また12月21日における敦賀湾周辺の表層水温は14°Cになっており(第八管区海上保安本部 海洋情報部ホームページ)、タイマイは海水温の低下や海の荒れなどで衰弱し、漂着したものであろう。なお、タイマイは福井市自然史博物館に収蔵された。

ヒメウミガメは死後かなり時間が経ってから漂着したものと思われ、死因は特定できていないが美浜町付近には定置網が多く、混獲された後に投棄された可能性も考えられる。

ヒメウミガメは連絡した日本ウミガメ協議会によって神戸市立須磨海浜水族園で解剖の結果、腐敗が進み生殖腺が観察できなかったため雌雄の判別はできなかった。また消化管内に食物は無く、脂肪層も非常に薄かったため、しばらく何も食べていなかったことが推察できた。解剖後の骨格は日本ウミガメ協議会に収蔵された。

近年福井県下ではウミガメ類の漂着が急増している。筆者は2000年から定期的に福井県下の海岸で漂着物調査を続けてきたが、2000年から2008年までウミガメの漂着は確認していない。日本ウミガメ協議会のウミガメ速報のデータによれば、2005年から2008年までの4年間における漂着記録はタイマイの1件しかない。だが、2009年にはアカウミガメ1件、アオウミガメ1件、オサガメ1件、タイマイ2件の計5件となった。そして2010年にはアカウミガメ3件、タイマイ1件、アオウミガメ1件の計5件が報告されている。こうした報告例の増加は、ビーチコーマーの増加だけではなく、繁殖例の増加、海水温の上昇や、対馬海流の流入量の増加に伴う回遊も、影響しているものと推測できる。今後も継続的な調査の際に、ウミガメ漂着に注目することで、ウミガメの生態や地理分布についての新たな知見が得られるであろう。

謝辞：本稿をまとめるにあたり北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- 第八管区海上保安本部 海洋情報部ホームページ。(http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN8/sokuho/sokuho_index.html)
林 重雄 2011. 福井県美浜町へのアカウミガメの漂着。漂着物学会誌 9 : 27-28.
石井 忠 1999. 新編漂着物事典, 380pp. 海鳥社, 福岡.
気象庁ホームページ。(http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html)
中村健児・上野俊一 1963. 原色日本両生・爬虫類図鑑, 214pp. 保育社, 大阪.
日本ウミガメ協議会ホームページ。(http://www.umigame.org/top.html)
百崎孝男ほか 2011. 福井県におけるウミガメ類の記録。福井市自然史博物館研究報告 58 : 41-46.
富田京一 2007. 日本のカメ・トカゲ・ヘビ, 180pp. 山と溪谷社, 東京.

(Received May 22, 2012; accepted June 26, 2012)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町 3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan